



平安だより

世田谷平安教会付属平安幼稚園
2018年3月号

「真の自由に生きよう」

牧師・園長 長村亮介

「生きる力を育てる」ということが、教育の世界で叫ばれています。このむずかしい社会を生き抜くために大切なことなのですが、「よりよく」生きる、「人間らしく」生きる力でなければいけないのではないのでしょうか。自分だけがお金を儲け、権力の座に就き、立場を守ろうとする、そのためには、他人はどうなってもいい、嘘も平気でつけば、人を欺いても構わないと思っている人が多くなっているように思えます。

「お金儲けをして何が悪い」「お金で人の心も買える」と、拝金主義をはっきり表明した人たちもいて、このような考えが弱肉強食の社会、格差を拡げる世の中を助長しています。お金が大切であり、必要なものであることは、長い間、管理職において、しみじみ経験しています。でも、お金の多寡が人の心の、幸せの尺度であり得ないことも知りました。聖書にある通り、「人はパンだけで生きるのではない」のです。自分自身の弱さを知りながら、情欲に打ち勝って、人間らしく、主体性を持って生きる。心の充足感で生きるのです。

人には皆、苦勞を厭い、面倒なことを避け、自分中心に生きようとする傾向があり、私もその例外ではありません。しかし、人間らしく、よりよく生きるということは、このような自然的傾向と闘うことなのです。したくても、してはいけない。したくなくても、すべきことをする。自由の行使こそは、人間の主体性の発現にほかなりません。

『面倒だから、しよう』 渡辺和子著

渡辺和子先生は一昨年に召されましたが、カトリックのシスターで、ノートルダム清心女子大学の理事長、学長を長く勤められた方です。お父様は二二六事件で、先生が九才の時、目の前で犠牲となりました。先生は戦争の残酷さを誰よりもご存知であった方だと思います。そして二二六事件のような出来事は、決してある日突然に起こったのではなく、そのような社会の風潮があったからこそ起こったのだということを、最近、ご心配の方々などからお聞きすることが多くなりました。

渡辺先生が、「生きる力を育てる」ということについて、それを「よりよく生きる」「人間らしく生きる」とことと教えられていることは、これも最近言われるようになりました。「深く考える」ということと強い関連性があると思います。今日、簡単に解り易いということばかりが評価され勝ちですが、ともするとそれは表面的な浅い理解に陥ってしまうことになりかねないと思います。人生、人が生きるということは、簡単に解り易いはずがありません。生きることはいつも深刻で複雑なものです。

キリスト教は「自分自身の弱さを知りながら、情欲に打ち勝って、人間らしく、主体性を持って生きる」ことを、イエス・キリストの十字架による罪の赦し、罪からの自由のことと教えています。私の罪、弱さを主イエスが十字架で、私の身代わりになって担ってくださいました。それによって罪から解放し、自由にしてくださったことに心から感謝をして、その喜びに生かされて、自分の人生を本当に大切にして生きること。それが困難の多い私たちの人生を、真の自由に生きることだと思えます。三月、年長さんは卒園ですね。みんなの歩みの上に、神さまの祝福が豊かにありますよう、お祈りします。Ω